

会 議 録

会議の名称	平成24年度第8回富士見市社会教育委員会議
開催日時	平成25年3月2日(土) 午前9時30分～12時
開催場所	教育委員会 2階 会議室
出席者	中澤佳珠代委員、前田憲之委員、西山ひろみ委員 武田秀規委員、高野昂子委員、田尻 円委員 事務局(生涯学習課長、副課長)
欠席者	4人(羽石貴裕委員、児玉亮一委員、長ヶ原美博委員、佐藤晃子委員)
公開・非公開	公開(傍聴人 0人)
会議次第	1. 協議事項 (1)「地域活動の活性化と次代を担うなかまづくり」の提言案について 2. 報告及び連絡事項 (1)入間地区社会教育協議会第5回社会教育委員部会について (2)その他 3. その他 (1)会議の開催について
会議資料	①公民館だより(3月) ②富士見市教育行政方針 ③水谷東まちづくり協議会だより
会議録確認	西山ひろみ委員

会 議 内 容 (要点記録)

○ 議長あいさつ

○ 報告及び協議事項

1. 協議事項

(1) 「地域活動の活性化と次代を担うなかまづくり」の提言案について

- 進行議長から、本日の協議は、前回の協議以降のグループ（A：文化活動、B：子ども関係）ごとの協議状況を報告いただき、その後、意見交換をすることとし、了承された。

A：文化活動グループの報告

アンケート調査と4団体からの聞き取り調査から、まとめてきた。

まとめは、サークルのリーダーから見た課題などとまだサークルには入っていない市民の目から見た課題などとして、まずは整理した。

そして、その課題などをどう改善していくかを、「会員を増やす・会の活性化」と「会の存続・後継者育成」という提言のポイントに沿って、「①サークル・市民団体ができること。②行政ができること。」の二つの視点でまとめを行った。

「会員を増やす・会の活性化」では、

①サークル・市民団体ができることとして、

- ・ 作品などの発表の場では、楽しさを伝えるチラシの作成や入会案内を用意し、会場にコーナーを設けるなどして、活動の様子を伝える。
- ・ 体験コーナーを作る。
- ・ 公民館のサークル公開日では、見学だけでなく参加型にする。
- ・ 広報伝言板の活用やホームページの作成を行う。

②行政ができることとして、

- ・ 広報「ふじみ」の掲載機会を増やす。
- ・ 市民が気軽に参加しやすい生涯学習の拠点をつくり、コーディネーターを配置する。
- ・ コーディネーターは、市民でサークル活動などを長く経験してきた方で、行政に意見の言える方。活動の仕方をきちんと伝えられる方など。
- ・ 市のホームページを充実させるとともに、窓口として市内の活動内容がわかるとともに、相談できる場所をつくる。

「会の存続・後継者育成」では、

①サークル・市民団体ができることとして、

- ・ 役員の数も多くし、負担を分担し合うことで、役員になることのハードルを低くする。
- ・ 役員構成を工夫し、運営内容を伝えていきやすくする。
- ・ 機関紙などを作り、技術や楽しさを共有する。

②行政ができることとして、

- ・ 公開講座などを受講した方に次のステージに立てるように促す。
- ・ コーディネーターの養成を行う。

- ・ サークル・市民団体同士の横のつながりをつくり、それぞれの強い部分で協力をしあう。
- ・ 施設の使いやすさなどで、市民目線で課題に向き合う。
- ・ 情報発信として、活動の様子などをデータ化して、サークル・市民団体に還元する。

そのほかの補足や意見は、以下のとおり各委員から発言があった。

委員：サークルに入ることは楽しみを求めてであるので、魅力を高めていくことが大事である。

委員：デジタルの時代になって、ホームページを見る人が多い。行政には、ホームページを見やすいものにしてほしい。どこを見ればいいのかのわかりにくい。

委員：4団体の聞き取りでも、これだけのまとめができた。もっと聞けば、さらにいろいろな情報が出てくるかもしれない。「40代から50代が活動できない」という話があったが、サークルの聞き取りで「仕事で疲れた頭を、まったく違う地域活動で切り替えることができた」ということを聞いた。これは大事なことと思った。また、コーディネーターの養成については、社会教育委員会議のこの間の2回の提言でも出してきていること。生涯学習推進基本計画にも、計画されている。いつこのことを始めるのかを明らかにしてほしいと思う。

委員：サークル・市民団体ができることとしては、

- ① サークル会員募集などのチラシは、カルチャーセンターなどには必ずあるが、公民館などにはおいていないところが多いので、サークルのラックなどを常設してほしい。サークル紹介では、紹介のひな型をつくるというのではないか。
- ② ツイッターなどインターネット上のコミュニケーションサービスを活用して、生涯学習情報を発信していくとみんなが見られていいのではないか。
- ③ サークルがどれだけ本気で活性化を図ろうとしているか、その本気度の確認も大事である。

委員：カルチャーセンターなどでは募集の際に、作品など写真を載せてパンフレットなどつくっている。市でも、宣伝では一度にまとめて募集をかけて広報などに出すのもいいと思う。

生涯学習の相談などの窓口という点では、公民館・交流センターなどに行くよりは、駅を利用することが多いのでそこに市専用のコーナーなどづくり、コーディネーターも配置されているといい。

事務局：この報告から、「現状→課題→提言」というまとめの方向性が見えてきたと思う。

報告を受けて、いくつか意見を言うと、①生涯学習推進の拠点作りが必要ということがある。場所はいろんな考え方があるが。行政的な窓口は、地域文化振興課と生涯学習課の二つになっているが、役割分担を含めて推進体制が明確でないという課題がある。その点では、狭山市が市民交流センターを整備して、そのなかで、窓口の相談業務を開始した。その業務は「生涯学習をすすめる会」という団体に委託して行い、市全体のお知らせ案内ができるようになっている

ので、参考となる。②もうひとつはサークルなどのネットワーク作りだが、これまで地域自治シンポジウムにおいて、サークル・団体をつなぐ考えで、分科会をつくり、検討をしてきた。いまは、公共施設を考える分科会ですすめてきているが、今後活用を検討してほしいと思う。③ホームページのことでは、サークル・団体が共同で作っていくということも考えられる。これを市が委託して、窓口となるページを作ることを進めるということも検討できる。

そのほか、鶴ヶ島市の例だが、無料で利用できる地域 SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)を始めて、市内のコミュニケーションに役立てている。その中では、サークルの活動を日ごとに見られるとか、情報発信もある。

行政施策は柱を整理していくと提言化されると思う。

委員：サークル団体の整理の仕方について、施設単位で行うばかりでなく、ジャンル・分野単位でも検討してほしい。

事務局：生涯学習情報誌は25年度に向けて、整理作成している。

委員：情報誌などは企業の力を借りて行うことも考えてほしい。

○ 進行議長から、本日の協議は、Aグループを行ったが、Bグループは次回とすることとし、提言のスタイルのみ検討することとして提案され、了承された。また、4月の定例会までに、「現状・課題・提言」で、グループごとにまとめることで、それぞれにすすめていくことで決まった。

○ 全体については、文化活動と子ども関係では違いが大きいので、これからはまずグループ単位でまとめていくこととした。

2. 報告及び連絡事項

- (1) 人間地区社会教育協議会第5回社会教育委員部会について
2月8日(金)午後2時～ 所沢市役所
<参加委員>羽石委員、長ヶ原委員 以上2人。

3. その他

- (1) 平成25年度教育行政方針および社会教育関係団体への補助金交付について
・ 教育行政方針を配布した。補助金の交付については、「子ども大学ふじみ実行委員会」に対するもので、説明し意見を求めた。

委員：子どもからの参加費はどうしているか。

事務局：1,000円を徴収している。

委員：子ども大学ふじみは今後も続けていくと思うが、修了生のその後の調査などは行うのか。

事務局：今は考えていない。検討するが、希望者が多い中でリピーターとして毎年参加できる状況でなく、そのことも課題となっている。

委員：対象の子どもたちは何年生か。子ども大学の様子を情報提供してほしい。

事務局：4年生から6年生まで。報告書も作っているが、ホームページでも提供している。

(2) 審議会委員の公募について

- ・ 社会教育委員、図書館協議会委員、スポーツ推進審議会委員の公募を4月に行うことを説明した。

(3) その他

- ・ 次回の日程は、平成25年4月6日土曜日、午前9時30分からとする。改めて、通知する。

(閉会)